



「適用して“効果を示す”こと」

氏名:	ふくら ともあき
SNS:	@kikituki
所属:	株式会社オープンストリーム
分野:	エンブラ/Web/その他

今回のテーマは、「技法はいつもひとつ（とは限らない）」ということで、テスト技法を実際に現場で適用して効果を上げるにはどうすれば良いかを考えようといった内容になっております。

現場で適用して効果を上げる（見せる）・・・これはまさに私が悩んでいるテーマそのものです。

これまでテストも開発と同じで体系的に学ぶ必要があるということで、書籍やサイト、WACATE でテストに関する様々なことを学んできました。また、現場でも少しずつですが、学んだことを取り入れてきました。

しかし、

- ・実際に効果があったか？
- ・コストはいくら削減できたのか？
- ・見落としていた不具合をいくつ発見できたか？

と言われると・・・言葉に詰まってしまうのが今の私の現状です。

こういうことを実施したら、こういった効果があるはず・・・という教科書的な回答ではなく、実際のところどうなの？と聞かれた時に、こういうことを行なって、その結果こういった効果がありました！と言えるようになることが今の課題であり目標です。

そのためには、

- ・どのような問題・課題があるのか？を正しく把握する
- ・その問題・課題に対して本当に有効な手段は何か？を考える

必要があります。

さらに、手段が有効かどうかを判断する為には、手段の目的・本質を知らなければなりません。

実行委員という立場ではありますが、セッション・ワークを通じて、そういった考え方をみなさんと一緒に学んでいこうと思います。2日間一緒に頑張りましょう！